

## 目標とメッセージ

**市長**「最後にご自身の今後の目標や新たに農業を始めたい人へのメッセージなどありましたら聞かせていただけますか」

**須藤**「これから先、農業をやっている人の平均年齢が70歳以上になるそうです。私は法人化して水田を大きい規模にするべく空けないようにしたいです」

**市長**「期待していますので頑張ってください」

**白石**「たいそうな話ではないですけど、農業って私の中でもかっこいいイメージがなかったのですが、思ったほど悪くないって伝えたいです」

**市長**「今、どのように感じていますか」

**白石**「仕事に合わせた生活もできます。作る作物もみんな違うんですね。自分がいいなって思う仕事をして、自分のスタイルを確立できて、それで生活ができるので、思ったほど悪くないです」

**新井**「わたしは雇用の安定、事業の拡大、所得の倍増。これを3年くらいで行いたいと思っていきます。所得が増えなければ農業やりたいという人も増えないと思っていますので」

**市長**「ぜひ新鮮な感覚でがんばっ

てください。

**平石**「養蚕をやっている人は専属でやっている人って少ないんです。田んぼとか色々なものと合わせて養蚕もやっているというのが実態です。今後は農業もやりつつ、ほかに何本か収入の柱があれば、元々農家じゃない人でも、田舎に移って農業ができると思います」

**市長**「農業だけではない収入の柱ということですか」

**平石**「そうですね。私の場合は養蚕時期は養蚕して、あとちょっと指導したり、技術のノウハウを販売する、などの仕事をしています。なるべく関連あるもので組み立てていくのが大事だと思います」

**佐藤**「農協としては、新規就農者に技術がある先輩の所に研修会に行けるような制度を作りつつ、3年から5年の間に独り立ちできるシステムを考えていかなければと思います。また安定的な収入を得るためには、色々な良い野菜があるという宣伝も必要と考えています」

**市長**「今日は皆さんの考えを聞かせていただき、私自身とても勉強になりました。本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます」

### 白石 哲さん



「私は農家が嫌で企業に就職してたんですけど、勤めて4年くらいたった頃に農家の人がすごい心に余裕があるように見えたんですね。それで父親に俺を雇えるかって聞いたんです。給料や休みとかきっちり交渉させてもらいました。今は農業の生活を楽しんでいます」

### 須藤 哲也さん



「水稻と野菜を生産しています。私は農林大学に通っている時に父親が他界して、卒業後就農という形で家に入りました。道具などは揃ってましたので大学で勉強したことがそのまま適用できる環境でした。」

### 新井 守さん



「露地栽培のナスと少量ですがハウス栽培ナス、プチヴェールをやっています。県外で働いていた時に父親が亡くなり、小さいころ親の手伝いをして土地に愛着があったので、私が跡を継ぎました。農協や農家の先輩に教えてもらっています。」

### Profile

皆さんに、仕事の内容や農業を始められたきっかけをお話いただきました。



### 平石 宣江さん



「鶯宮で養蚕をしています。11年前に養蚕に関心が出て、桑の苗を植えるところから始めました。糸まで作って販路を拓くという形をとっています。付加価値をつけてオーダーメイドという形で作家の人などに向けて作っています。」

### 佐藤 寿昭さん



「私は農協の営農経済課で働いています。若い人が入ってくるのは凄く良いことなので、続けてもらうためには安定的な収入が必要と考えています。そのために安中の野菜の良さを積極的にアピールしていきます。」